



平成31年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年7月13日

上場会社名



株式会社ロゼッタ

上場取引所 東

コード番号 6182 URL <https://www.rozetta.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 五石 順一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部長 (氏名) 秋田 誠 TEL 03-6685-9570

四半期報告書提出予定日 平成30年7月13日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第1四半期の連結業績（平成30年3月1日～平成30年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第1四半期	651	22.1	44	20.3	46	23.0	35	103.7
30年2月期第1四半期	533	17.9	37	△47.5	37	△47.2	17	△62.4

(注) 包括利益 31年2月期第1四半期 35百万円 (103.7%) 30年2月期第1四半期 17百万円 (△62.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第1四半期	3.57	3.41
30年2月期第1四半期	1.77	1.68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第1四半期	2,256	930	41.2
30年2月期	2,089	894	42.8

(参考) 自己資本 31年2月期第1四半期 930百万円 30年2月期 894百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
31年2月期	ー	ー	ー	ー	ー
31年2月期(予想)	ー	0.00	ー	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年2月期の連結業績予想（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

当社グループは平成30年2月期の第4四半期より大きな変革期を迎えており、業績の変動が極めて著しく予想が困難なため、業績予想は固定値としては開示しないこととしております。

平成31年2月期の連結業績予想は、最低額のみ開示で、過去最高売上（2,006百万円）以上、過去最高利益（営業利益226百万円）以上との形としてのみ公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年2月期1Q	10,042,260株	30年2月期	10,042,260株
② 期末自己株式数	31年2月期1Q	176株	30年2月期	176株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年2月期1Q	10,042,084株	30年2月期1Q	9,951,085株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（決算説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	7
(1株当たり情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成30年3月1日～平成30年5月31日)につきましては、前期において、先行投資を行い高精度となった機械翻訳(T-400 ver.2)の受注が大幅に増加いたしました。これに伴い営業部門から管理部門まで全社的に大幅な増員を行い、今後の急速な業容拡大に向けた組織体制強化に取り組みました。

結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は651,196千円(前年同期比22.1%増)、営業利益は44,969千円(同20.3%増)、経常利益は46,241千円(同23.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は35,883千円(同103.7%増)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

①MT事業

MT事業におきましては、平成29年11月末にリリースした『T-400(ver.2)』の新規受注が引き続き好調を維持しており、売上高は140,408千円(前年同期比89.3%増)、セグメント利益は10,846千円(前年同期比98.5%増)となりました。

②GLOZE事業

GLOZE事業におきましては、独自の翻訳支援ツールによる翻訳の短納期、低価格、高品質化に努めた結果、売上高は122,955千円(前年同期比7.6%増)となりましたが、人件費等の販管費の増加によりセグメント利益は6,730千円(前年同期比52.0%減)となりました。

③クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業におきましては、前第4四半期からスピード翻訳株式会社に加わったことにより、売上高は137,184千円(前年同期比56.3%増)、となりましたが、人件費等の販管費の増加によりセグメント利益は2,444千円(前年同期比50.8%減)となりました。

④翻訳・通訳事業

翻訳・通訳事業におきましては、大口案件の増加等により、売上高は276,610千円(前年同期比26.2%増)、セグメント利益は48,031千円(前年同期比69.9%増)となりました。

⑤企業研修事業

企業研修事業におきましては、営業体制の強化に努めたことにより、売上高は57,681千円(前年同期比2.5%増)となりましたが、人件費等の販管費の増加によりセグメント利益は6,079千円(前年同期比33.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,489,653千円となり、前連結会計年度末に比べ114,516千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が25,398千円増加、仕掛品が30,280千円増加、未収入金が63,592千円増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ52,457千円増加して766,814千円となりました。これは有形固定資産が13,621千円減少、無形固定資産が79,632千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は866,195千円となり、前連結会計年度末に比べ196,991千円増加いたしました。これは買掛金が55,069千円増加、前受金が86,003千円増加、賞与引当金が23,507千円増加、未払費用が13,411千円増加、未払法人税等が12,994千円増加したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ65,901千円減少して459,490千円となりました。これは長期借入金の返済によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は930,782千円となり、前連結会計年度末に比べ35,883千円増加いたしました。これは連結剰余金が35,883千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは平成30年2月期の第4四半期より大きな変革期を迎えており、業績の変動が極めて著しく予想が困難なため、業績予想は固定値としては開示しないこととしております。

平成31年2月期の連結業績予想は、最低額のみ開示で、過去最高売上(2,006百万円)以上、過去最高利益(営業利益226百万円)以上との形としてのみ公表いたします。

(注) 業績予測には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合がありますので、全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えて下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	973,632	999,030
受取手形及び売掛金	268,101	271,965
たな卸資産	29,985	60,222
その他	114,169	171,381
貸倒引当金	△10,751	△12,947
流動資産合計	1,375,137	1,489,653
固定資産		
有形固定資産	160,190	146,568
無形固定資産		
のれん	110,776	105,460
ソフトウェア	303,673	335,745
その他	98,448	151,324
無形固定資産合計	512,898	592,530
投資その他の資産	41,268	27,714
固定資産合計	714,357	766,814
資産合計	2,089,494	2,256,467
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	111,286	166,355
短期借入金	14,940	830
1年内返済予定の長期借入金	260,140	257,128
未払法人税等	17,367	30,362
賞与引当金	20,389	43,896
前受金	136,800	222,804
その他	108,279	144,817
流動負債合計	669,204	866,195
固定負債		
長期借入金	525,391	459,490
固定負債合計	525,391	459,490
負債合計	1,194,595	1,325,685
純資産の部		
株主資本		
資本金	230,093	230,093
資本剰余金	1,210,282	1,210,282
利益剰余金	△545,709	△509,826
自己株式	△225	△225
株主資本合計	894,440	930,324
新株予約権	458	458
純資産合計	894,898	930,782
負債純資産合計	2,089,494	2,256,467

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
売上高	533,251	651,196
売上原価	228,420	273,192
売上総利益	304,831	378,003
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	73,989	102,357
賞与引当金繰入額	17,697	20,457
その他	175,768	210,219
販売費及び一般管理費合計	267,455	333,033
営業利益	37,376	44,969
営業外収益		
受取利息	2	15
為替差益	—	138
その他	1,086	2,053
営業外収益合計	1,089	2,207
営業外費用		
支払利息	853	920
為替差損	9	—
その他	3	15
営業外費用合計	867	936
経常利益	37,598	46,241
特別利益		
保険解約返戻金	—	11,513
特別利益合計	—	11,513
特別損失		
固定資産除却損	—	1,672
特別損失合計	—	1,672
税金等調整前四半期純利益	37,598	56,082
法人税等	19,983	20,198
四半期純利益	17,614	35,883
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,614	35,883

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	17,614	35,883
四半期包括利益	17,614	35,883
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,614	35,883

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	MT事業	GLOZE事業	クラウド ソーシング 事業	翻訳・通訳 事業	企業研修 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	64,282	114,298	82,018	216,469	56,182	533,251	-	533,251
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	9,900	-	5,736	2,650	82	18,368	△18,368	-
計	74,182	114,298	87,754	219,120	56,265	551,619	△18,368	533,251
セグメント利益	5,465	14,014	4,966	28,269	9,185	61,899	△24,523	37,376

(注) 1. セグメント利益の調整額△24,525千円には、セグメント間取引消去、報告セグメントに帰属しないのれんの償却額、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年3月1日至平成30年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	MT事業	GLOZE事業	クラウド ソーシング 事業	翻訳・通訳 事業	企業研修 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	139,808	122,955	90,127	240,806	57,498	651,196	-	651,196
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	600	-	47,056	35,804	182	83,643	△83,643	-
計	140,408	122,955	137,184	276,610	57,681	734,839	△83,643	651,196
セグメント利益	10,846	6,730	2,444	48,031	6,079	74,133	△29,164	44,969

(注) 1. セグメント利益の調整額△29,164千円には、セグメント間取引消去、報告セグメントに帰属しないのれんの償却額、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	1.77円	3.57円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	17,614	35,883
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	17,614	35,883
普通株式の期中平均株式数	9,951,085	10,042,084
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	1.68円	3.41円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数	548,943	471,960
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—